

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	秋田県
推進地域名	秋田県全域

1. 事業推進の体制

別添1参照

2. 具体的取組等について

テーマ1	栄養教諭を中核とした学校における食育の推進
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 栄養教諭配置校における家庭、地域と連携した食育推進 ◎ 校種間（幼保・小・中・高）との連携・体制作りを図った。 共通テーマ：地場産物活用促進・朝食摂取状況・肥満傾向への対応を図った。 ① 具体的取組 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 栄養教諭配置19校は、実態把握の上、校内体制を整備し、改善・向上を目指した。 ◎ 実行委員会では、19校の進捗状況、内容のすり合わせや改善に向け取り組んだ。 ② 家庭、地域等との連携した取組 <ul style="list-style-type: none"> ○ 地場産物活用調理講習、親子料理教室を開催した。 ③ 報告書（実践事例集）作成 <ul style="list-style-type: none"> ○ 成果と課題を検証、研究のまとめを報告書として作成・配布した。 ○ 栄養教諭配置校における実践を実践事例集として作成・配布した。 ○ 報告書及び実践事例集は一冊にまとめ作成・配布した。 	
テーマ2	家庭・地域との連携・啓発・周知
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 栄養教諭配置校における家庭、地域と連携した食育推進 ◎ 校種間（幼保・小・中・高）との連携・体制づくり ① 親子料理教室 <ul style="list-style-type: none"> 県内2箇所で開催した。米粉を使った料理をメインに実施した。 ② スキルアップ研修 <ul style="list-style-type: none"> ○ 指導力（授業）向上に向けた研修 具体的取組 <ul style="list-style-type: none"> 開催日 平成22年8月2日（月）～3日（火） 参集者 栄養教諭19名 研修内容 講義「食に関する指導の全体計画の作成について」 秋田栄養短期大学 専任講師 工藤友子 演習 グループ別指導案作成（4グループ） テーマ：Aバランスよくたべよう Bやさいとなかよくなるろう 演習 模擬授業提示・評価 指導助言者 秋田栄養短期大学 専任講師 工藤友子 	

スキルアップ研修での模擬授業の様子（写真）



A：バランスよくたべよう



B：やさいとなかよくなるろう

○公開授業研究会

具体的取組

- 開催日 平成22年10月5日（火）
- 内容 午前10時から午前10時20分 公開保育（授業）
 午前10時30分から午前10時50分 栄養教諭による保護者向け食育講話
 午後1時30分から午後3時 研究会
- 参集者 栄養教諭19名・当園園長・当園教諭
- 研究主題 栄養教諭を中核とした校種間での連携の在り方
 ー発達や学びの連続性を踏まえた体制の在り方や体制づくりー
- 会場 認定こども園美郷町立六郷幼稚園保育園
- 公開内容 栄養教諭を活用した保育（授業）提示（当園栄養士・教諭との3T授業）
 公開保育（授業）研究会の様子（写真）



公開保育（授業）開会行事



公開保育授業の一場面



公開保育授業の一場面



保護者への食育講話の一場面

テーマ3 地場産物活用を通じた食育の推進

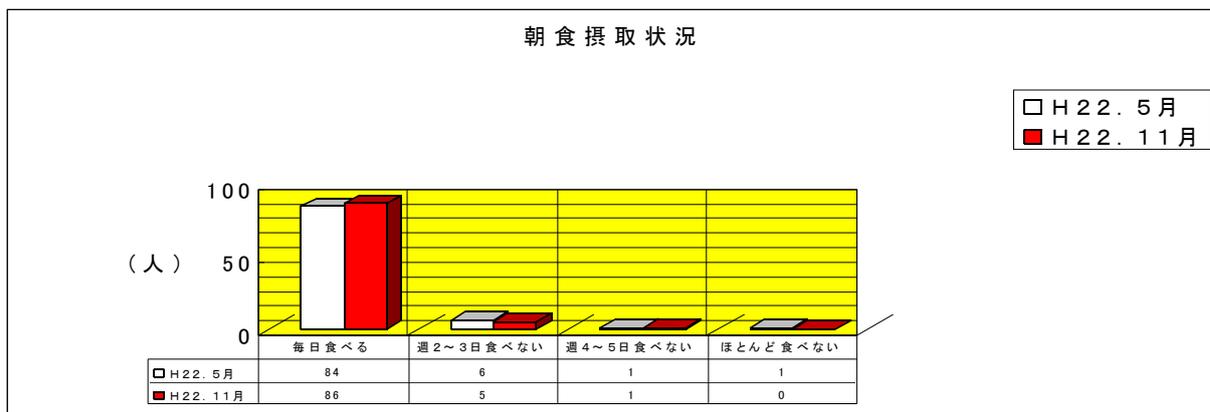
- ◎ 栄養教諭配置校における家庭、地域と連携した食育推進
- ◎ 校種間（幼保・小・中・高）との連携・体制づくり
- ① 地場産物活用調理講習
 - 地場産食材を活用し、きりたんぼ鍋、だまこ汁を調理実習（児童生徒1, 557名47回）
 - 栄養教諭配置校等中心
- ② 地場産物活用率の低い市町村へのフォローアップ
 - 現状の把握と体制整備に向けた市町村訪問を実施した。（5市町村）
- ③ 先進地視察研修
 - 高知県（香南市、南国市の学校：平成22年11月24日～26日）
 - 栄養教諭を効果的に活用した食育推進・地場産物活用の取組事例を訪問を通し研鑽した。
 - 訪問者は栄養教諭2名

テーマ1～3に共通する具体的計画

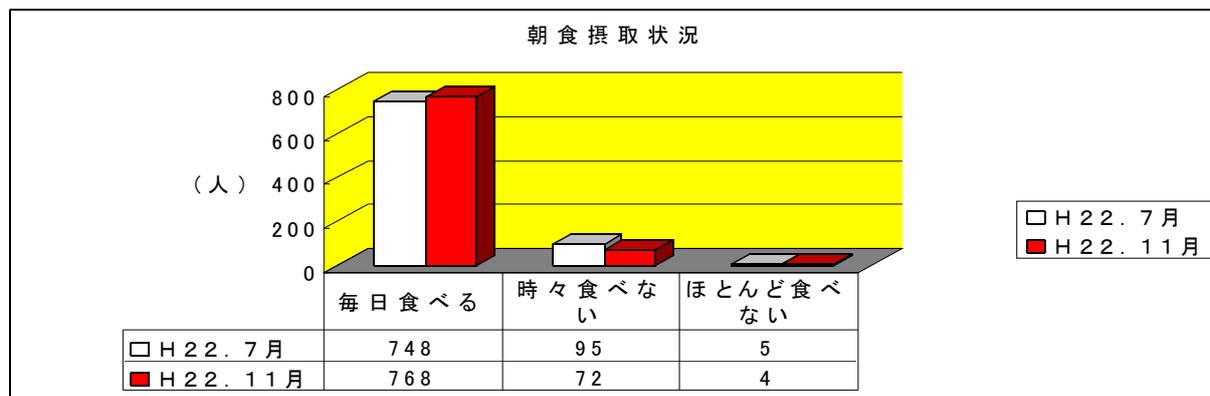
- ・ 食育リーフレットⅡを作成・配布した。（小・中・高校生等）
- ・ 栄養教諭配置校の取組を報告書に掲載・配布した。（小・中・高等学校等）

数字で変化のあった事項について

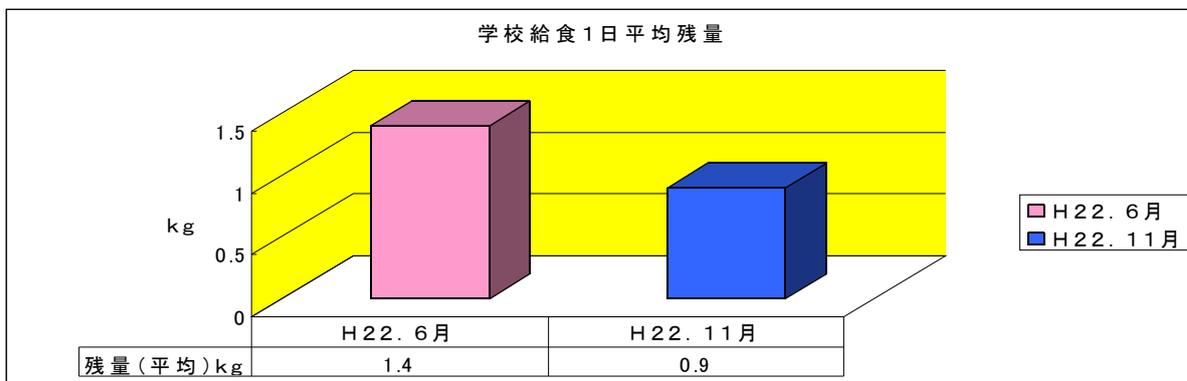
- ・ 事例1：栄養教諭配置に伴い朝食摂取に改善が見られた
 - 能代市立〇〇小学校（5年生：児童数92人）
 - 5月調査よりも、毎日朝食を食べる児童が増えた。また、ほとんど食べない児童がゼロとなり朝食摂取の改善が図られた。



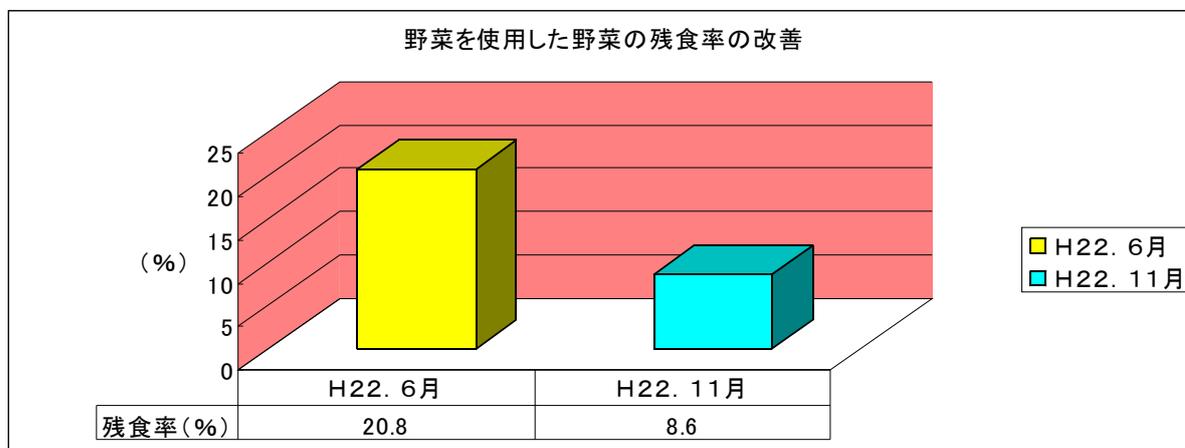
- 由利本荘市立〇〇小学校（全校児童生徒：7月848人、11月844人）
- 全校児童を対象とした調査であり、11月調査では、毎日食べる児童が増えた。また、時々、ほとんど食べない児童が減少し、朝食摂取の改善が図られた。



- 事例2：栄養教諭配置に伴い学校給食残食率の改善が見られた。
○三種町立○○小学校（全校児童120名）（6月・11月週報平均）
積極的に地場産物活用を図るとともに、給食指導の充実に取り組んだ。



○仙北市立○○小学校（全校児童280名）（6月・11月週報平均）



野菜を使用したメニューの残食率が、サラダ類が25%から14%、炒め物（野菜ソテー）が24%から4%、和え物（野菜のごまあえ）15%から9%、煮物12%から11%に減少した。
※地場産物活用に力を入れ、給食だより、一口メモなどを活用し、地場産物の良さや栄養について知らせたり、給食時間に実物の野菜を見せたり、話をすることによって興味関心が高まった。結果、残食率の改善が図られた。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- スキルアップ研修会を開催し、指導案検討、模擬授業を行い、指導力（授業力）の向上を図るとともに、校種間連携の在り方についても研究協議を深めることができた。
- 授業研究会については、スキルアップ研修会の延長線上に位置付け栄養教諭の関わり方について研究を深めた。
- 幼稚園、保育園との連携は、本県の健康課題の一つである肥満傾向の児童生徒が5歳児から全国と比較し高い値を示していることから方策を探るために意識的に設定したものである。今回の取組を踏まえそれぞれの栄養教諭が各地域で取組の輪を広げていくことを期待したい。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 本県健康課題の一つである肥満傾向の出現率の改善については、校種を越えた一貫した取組が課題である。
- 家庭・地域と連携した取組が必要である。
- 地場産物活用促進について、今後とも課題として取り組んでいくことが重要である。

平成22年度文部科学省委託事業栄養教諭を中核とした食育推進事業
 平成22年度秋田県「食で育てる秋田っ子」推進事業

文 部 科 学 省

秋 田 県 教 育 委 員 会

検 討 委 員 会

学識経験者（大学教授1名） 医師（1名）
 学校関係者（学校長代表2名・養護教諭代表1名・栄養教諭代表2名）
 保護者代表（1名） 農業関係者等（1名） 県栄養士会長（1名）
 農業関係団体（1名） 食生活改善推進委員等（1名） 行政関係者（知事部局1名）
 教育事務所指導主事（3名）
 関係各課課（4名） 事務局（4名） 合計24名

実 行 委 員 会

栄養教諭（19名） 知事部局（1名）
 事務局員（5名） 合計25名

テーマ1	テーマ2	テーマ3
栄養教諭を中核とした学校における食育の推進 ◎共通テーマは3点 ○地場産物活用促進 30%の目標をクリアするための具体的取組（共通） ○朝食摂取の向上 朝食摂取率が改善するための具体的取組（共通） ○肥満傾向の改善 肥満傾向の児童生徒が減少するための具体的取組（共通） ○その他 健康課題を改善するため必要に応じ取組（個別）	家庭・地域との連携・啓発・周知 ○親子料理教室 ・2箇所 ○公開授業 ・授業力向上に向けた研修 ・公開授業研究会（県内1箇所） ○食育リーフレットパート2作成・配布 ○実践報告書作成・配布	地場産物活用した食育の推進 ○地場産物活用調理講習 ・約1,200人 ・講師（栄養教諭・食生活改善推進委員） ・地場産物活用・郷土料理の伝承 ○地場産物活用率の低い市町村へのフォローアップ ・体制整備に向けた訪問指導 ○先進地視察研修 ○全国連絡協議会

← 幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校との連携・体制づくり 栄養教諭を中核とした食育推進 →